

6月議会 取手市議会

6月10～25日

子育て、ジェンダー平等 水道値上げ・再開発ストップ

くらしを守る 日本共産党



市として 生理用品の常備を 小池えつ子

コロナ禍の中、顕在化した「生理の貧困」への支援策を、生活支援と合わせて、女性の権利保障やジェンダー平等社会につながる視点で「トイレトイレットペーパーも生理用品も同じようにトイレに常備された社会」を求めて質問しま

した。公共施設や学校のトイレに設置することに対しては「対応にあたる現場の先生方との協議を図る」とのことでしたが、「誰もが安心して利用できるのはトイレに常備されていること！」と念を押しておきました。



子育て、災害対策を問う 遠山ちえ子

〇市は「国保税賦課方式は、所得割と均等割りの2方式へ変更、その際交付金が交付される。12月議会には、税条例改定を行う予定」と国保税引き上げの可能性を示唆する答弁。18歳以下の国保税均等割額半額減免をさら

に全額減免を求めました。〇ゲリラ豪雨・大雨対策、特に藤代地域の避難対策について、高台の公共施設や公園等への車中避難、要支援者への個別支援計画など重要課題と、放課後子どもクラブの一部民営化問題を質しました。



市長は、水余り招いた過大水源開発に見解示さず 関戸 勇

水道料金は1978年から値上げがはじまり、今では当時の226%となり、市民に大きな負担となっています。

茨城県が過剰な給水人口を取手市や各市町村に押し付け、水源開発。その負担を利用者にかぶせてきた問題を取手市の総合計画策定に関わった

経緯も含め質しました。

水余りでもハッ場ダム建設、当初計画から完成時期が37年伸びて、進められる霞ヶ浦導水事業の推進側に立つ藤井市長（県南水道企業長）の姿勢を質しました。

市長は、答弁しませんでした。



デベロッパー独り勝ちの再開発事業で活性化？ 加増みつ子

西口駅前区画整理事業は、A街区のビル1棟を残したまま進められています。

残る地権者へ公正・公平な手続きに基づき、誠実な対応で区画整理事業の速やかな終息を。また地権者、取手市にとってリスクが大きく、デベロッパー独り勝ちの再開発事業

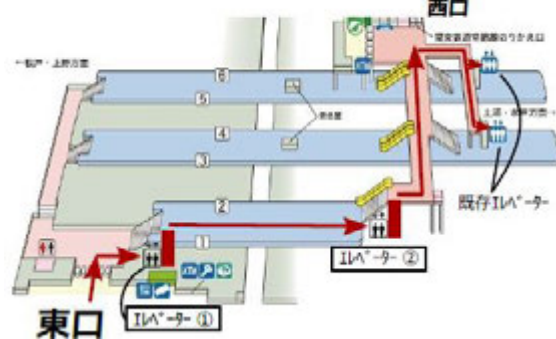
は、撤退・見直しを行う事を求めました。しかし市長は、長引いてきた事業への反省もなく、「地域経済活性化？」へと、タワーマンションや商業施設等導入の再開発に固執しています。

再開発計画の公開・市民説明を求めました。

各議員の一般質問から

10日開会の取手市議会では、老朽化した藤代小学校大規模改造工事請負5億5千万円（落札率99%）の契約、取手駅構内のエレベーター設置工事に補助金2億8,300万円（3か年継続）、グリスポ体育館の床改修に4,300万円の補正予算などを審議。議会冒頭の日本共産党・無党派クラブ共同提出の「五輪・パラリンピック中止を求める意見書案」は、公明党などの反対で否決。補正予算などの採決は25日になります。

【取手市・JR合意案（当初JR提案）】
概算工事費 6億6,900万円（市補助 2億2,300万円）



エレベーター新設 最も利用者少なく利便性最悪
しかも計画段階より6000万円の市補助金は増額

JRによる千代田線ホームへのエレベーター設置工事は、本年度からの3か年計画、工事総額8億5000万円（その中に国・市各1/3補助）を予定。今年3月から土休日の運行中止で、平日朝夕のみの運行となった最も利用者が少ない千代

田線ホームへの設置について、利用者から「これでは補助金出してつくる意味がない」と、批判の声が上がっています。

JRは、千代田線へのホームドア設置も計画しており、これも補助金の対象になります。

取手駅に エレベーター

千代田線ホームに設置で利用者いるの？
千代田線ホームに設置で利用者いるの？



工事中のA街区。整地後駅前暫定広場として利用し、駅前交通広場完成後に再開発事業を計画する。（6月21日撮影）

「取手駅西口開発」を問う
シリーズ⑧は、次号に

県南水道 値上げ

茨城県との契約水量改定で止められる

「県企業局は黒字会計、茨城県に余分に払う分を減らし、水道水の原価が下がれば、料金値上げなしで水道施設更新はできる」。水道運営審議会での委員の意見です。

企業団は「市や町で決め

た人口想定に基づき契約水量を決め、水源開発を完成。契約水量は変えられない。ハッ場ダムも完成し負担は今後来る、水道原価は下げられない」と県の答えを紹介しています。しかし事実とは異なります。



「環境破壊の無駄なダム」と批判があった
完成前のハッ場ダム（2019年8月）
ハッ場ダムホームページより

昭和50年取手市の人口は10万人を越え、昭和65年に県は、取手市の人口を16万7千人（合併計画は無し）とする想定を示しました。

県が市町村に示した県全体の人口想定を420万人とし、それを理由に国と共に巨大な水源開発事業を進めました。



水道行政改め 値上げストップ

ムダな水源開発の負担を水道利用者にかぶせてきた県や、県南水道企業団の責任は重大です。この仕組みを変えなければ、値上げは永遠に続くことになってしまいます。

日本共産党は、国と県が招いた水余りのツケの市民への押し付けを許さず、実態に合わせた県と県南水道の契約水量改定など、値上げ中止へ力を尽くします。

水道問題を考える取手の会よりお願い

茨城県南水道議会は7月16日（予定）水道料金値上げ関係議案の審議が予定されます。

「水道料金の値上げをしないことを求める請願署」第1次提出は6月28日 第2次は7月15日までに提出し、議案と請願の同日審議となります。ご協力をお願いします。

高い水道料金のおおもと、水源開発は過剰な人口想定押し付けから始まった

ワクチン接種

ころころ変わる菅政権の方針 自治体に混乱、市民に不安拡大

6月10日議会全員協議会で関戸市議の質疑に、集団接種会場はウェルネスプラザ・福祉交流センター・藤代公民館に加え、新たにゆめみ野会場が追加される」と市長に代わって部長答弁。15日付広報も同様の掲載。6月17日更新の取手市ホームページには、「ゆめみ野会場以外の予約はいっぱい」と記載。接種予約券発送資料（5/28日現在）にはウェルネスプラザとゆめみ野の2会場が集団接種会場

と記載。これらの不統一が、市民の不安を広げています。感染防止とワクチン接種への多忙な中で保健センターなど職員の懸命な努力にもかかわらず、菅政権のワクチン配付の遅れところころ変わる接種方針が、自治体に混乱をもたらしています。政府とともに市民を守る市長の責任・能力が問われる事態です。日本共産党は、政府と取手市に対し、安全で迅速なワクチン接種を求めています。

取手市内のワクチン接種会場（6月下旬現在）個別接種29の医療機関
集団接種会場はウェルネスプラザとゆめみ野の2か所。予約状況によりそれぞれで接種時期も変動しています。

ゆめみ野接種会場へ臨時バス往復便が30分毎に出ます

ウェルネスプラザ発8:30→ゆめみ野接種会場発17:00まで

藤代庁舎発9:30→ゆめみ野接種会場発18:45まで

ゆめみ野駅と接種会場間の別便も運行されます。

五輪中止求める意見書公明など反対で否決！

6月10日市議会初日 日本共産党と無会派クラブが共同提出した「コロナ禍での東京五輪開催中止の決断を求める意見書案」は、公明党などの反対多数（賛成8反対14）で否決されました。命よりも五輪開催を優先する、菅政権擁護の取手市議会多数派への、市民の批判は免れないでしょう。

オリンピック最優先の菅政権 ワクチン接種数拡大の中の不平等



国民そっちのけの強権的運まかせ 宮脇 達

（6月20日付赤旗より）

7月18日、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾見会長らは5輪開催なら「無観客が望ましい」、有観客なら「基準厳しく」との提言を提出。

有観客での五輪開催にしゃにむに突っ走る菅首相は、頼みの綱とスがるワクチン接種拡大に大号令。感染リスクの高い高齢者優先方針を転換、17日から若年層もOKに。接種券の配布されたところと未配付のところに、不平等が生じるなど、高齢者よりも早く若年層の接種が終わる矛盾も明らかに。

人命より五輪開催優先で突っ走る菅政権の危うさをたどすべき国会も、政権与党は閉会を強行しました。6月の時事通信世論調査は、五輪中止・延期が63%と多数です。

政権は、今こそ国民世論に従いコロナ対策に集中すべきです。